

田岡化学工業株式会社
2023年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2023年5月24日13時～13時35分

当社説明者： 取締役社長 佐々木 康彰
専務取締役事業支援室長 田岡 信夫
取締役 岩崎 明

[説明内容]

5月24日に開示した全33ページのPDFに沿った説明。

https://www.taoka-chem.co.jp/ir/note/202303_briefing.pdf

[質疑応答内容]

質問1 レンズ用モノマーについて、本当に在庫調整と言えるのか、実需がこのレベルではないのか。

回答 顧客からは、一昨年中国のスマートフォンメーカーが大量に製品を購入し、流通在庫が溜まっていたものの在庫調整は終わったと聞いている。一方で、昨年度及び本年度については、当社及び顧客の双方に相当の在庫が溜まっている状況である。需要回復を見越して在庫生産したものの、昨年スマートフォンの販売台数が減少する等需要が落ちたことにより、在庫の消化が遅れているためである。今年度、需要家から末端への販売量は恐らく増加するが、当社のモノマー販売は回復に遅れが生じるとみており、本来の需要より下回っていると考えている。

質問2 23年度の出荷数量はどの程度で、昨年第4四半期と比較してどのようになるか。

回答 22年度と23年度の出荷数量は、グレード別構成差はあるがほぼ同水準とみている。四半期別については、多少のずれはあるが均等に出荷できるとみている。

質問3 今後3年間でどの程度出荷数量が増えるか、車載用途も含めて教えてほしい。

回答 顧客からは、実需に戻ったとして、車載用、VR用等の新しい分野で開発を手掛けていて、ゆるやかに需要が伸びていくだろうと聞いている。守秘の関係で詳しくは説明できないが、需要家と新たなグレードの開発を進めており、数年内に出荷に加わるものと期待している。

質問 4 合弁会社新工場の稼働スケジュールを教えてください、また今年度合弁会社の新工場からどの程度出荷していくのか。

回答 現状の見込みでは今年度下期から生産を開始する。工場の立ち上がり時期であり、品質を確認しながらの運転になるため、今年度の出荷は少ないと思われる。来年度は在庫調整が終わると期待しており、その場合は当社と合弁会社新工場の生産でほぼ需要を賄なえとみている。

質問 5 買掛金が減少した要因は何か。

回答 売掛金も減少しており、生産数量の減少に伴って購入原料が減少したためである。

質問 6 新しいスマートフォンではカメラのレンズ枚数が多くなっていると聞いている。モノマーの使用量に影響はあるのか。

回答 当社のモノマーもペリスコープレンズ用途に使用されていると聞いている。数量的な面では現時点でそれほど大きなインパクトはないと感じている。顧客の開発によるところが大きい。

質問 7 ペリスコープレンズについて、今までの一眼部分が横方向に何枚もレンズを重ねることになるが、モノマー使用量への影響は大きくないのか。

回答 今のところそれほど大きな影響はない。